

平成 30 年 10 月 11 日

## H30 年度 第 29 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 実施報告書

実施日： 平成 30 年 7 月 13 日～14 日  
会場： 阿蘇プラザホテル（熊本県阿蘇市内牧温泉 1287）  
参加者総数： 134 名（学生 96 名、教員 24 名、企業 12 名、講師 2 名）  
担当校： 九州大学  
実行委員長 若林 里衣 九州大学大学院 後藤・神谷研究室  
学生幹事 代表 吉田 航 九州大学大学院 後藤・神谷研究室  
庶務 孔 慶リョウ 九州大学大学院 後藤・神谷研究室  
小坂 秀斗 九州大学大学院 後藤・神谷研究室

### 討論会実施内容

会場制の合宿形式で行った。別紙 1 に示すプログラムに従い、第 1 日目は、学生企画、特別講演 1、企業紹介および交流会を順に実施した。第 2 日目はポスター発表を実施したのち、特別講演 2、総合討論を行って本会を閉会した。本会の会計報告書を別紙 2 に記載する。

#### ○学生企画「若手ケミカルエンジニア×謎解きゲーム 2018@阿蘇」

学生企画参加者 70 名を 10 グループに分け、「リアル脱出ゲーム」のような趣向の企画を行った。この企画では学生間の協力が不可欠となるような状況を与え、学生間での活発な交流を促すことにより、その後のポスターセッションでより踏み込んだ内容での討論ができる環境を提供することを目的とした。グループはできるだけ異なる所属の者同士が一緒になるように編成した。グループ内で意見を出しながら次々と化学に関連する課題を解き進め、ゴールに向かい競争する。正解を導くと屋外へ次の問題やヒントを受け取りに行くように設定するなど、オリエンテーリングの要素も組み込んで課題を設定した。参加者が熱心に取り組む様子が見て取れた（別紙 3-1 図 1、2）。企画自体は概ね好評であったが、問題の難易度が少し高いという声が挙がった。

#### ○特別講演会 1 「免疫細胞を活用するバイオマテリアル」 講師 戸井田 力 氏（産総研）

戸井田 力氏による特別講演会を実施した（別紙 3-1 図 3）。免疫細胞・マクロファージを利用した、DDS キャリヤーや再生医療への応用に関する研究についてご講演いただいた。学生たちにとって、産総研などの研究機関の研究員の方から発表を聞く機会は少ないため、大変興味深かったようである。「今後の自身の研究に役立つ」といった意見や、「講演時間が短かったため、もっと詳しく聞きたかった」という意見が寄せられた。

## ○企業紹介・交流会

企業紹介は、住友ベークライト株式会社、株式会社 クラレ、大正製薬株式会社、株式会社 カネカ、新日鉄住金化学株式会社、東レ株式会社、KAICO 株式会社、三菱ケミカル株式会社の計 8 社の社員の方から、各 10 分の持ち時間で会社の概要、製品開発の取り組み、学生へのメッセージなどの内容を含む発表を行っていただいた。その後、展示会形式での交流会を開催し、学生や教員が興味のある企業ブースで活発に交流・質問をしていた（別紙 3-2 図 4）。「就職活動に大変参考になった」「普段なかなか機会のない企業の方と気張らず交流できた」という意見が寄せられ、特に就職活動を控える学生にとって大変有意義な会となったようである。一方、就職活動を終えた修士 2 年の学生がやや消極的であった点、参加人数に対して会場が狭かった点は改善の余地があると考えられる。

その後、夕食・懇親会を行った。企業参加者にもご参加いただき、企業と学生・教員の交流がさらに深まる様子が見られた。

## ○ポスター発表

7 月 14 日 8:30 からポスターセッションを実施した（奇数番 60 分+偶数番 60 分）（別紙 3-2 図 5）。また、企業参加者についてもそれぞれポスター展示を行っていただいた。学生ポスター発表の審査対象は 95 件であった。参加者全員が審査員となり、投票によりポスター審査を実施し、上位 2 名を最優秀賞、次の 10 名を優秀賞受賞者として選出した（別紙 4）。閉会式にてポスター賞受賞式を行い、賞状と副賞（図書券 3,000 円）を授与した。

## ○特別講演会 2 「産学連携研究の利点と欠点」 講師 斎藤 恭一 氏（千葉大学）

斎藤 恭一氏に約 50 分のご発表を頂いた（別紙 3-2 図 6）。斎藤先生がこれまで行ってこられた産学連携研究の利点と欠点について、ご自身の成功体験や失敗談等を交えながら話していただいた。学生や若手教員がどのようなことを考えて日常を過ごすべきかというメッセージや、面白いプレゼンテーションをするためのヒントが随所に見られ、アンケートでも「もっと話を聞きたかった」等のコメントがあり大好評であった。

その後、ポスター賞受賞式、総合討論、会計報告、アンケート調査を行ってから、本会を閉会し、集合写真（別紙 3-3 図 7）を撮影して解散とした。次回、第 30 回大会は崇城大学 櫻木美菜助教を世話人として開催される予定である。

以上

(別紙1)

## 第29回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 プログラム

### 【第1日目 平成30年7月13日(金)】

12:00~13:00 参加受付

13:00~13:10 開会式

13:10~14:30 学生企画

「若手ケミカルエンジニア×謎解きゲーム2018@阿蘇」

14:45~15:15 特別講演会1

「免疫細胞を活用するバイオマテリアル」

講師 戸井田 力 氏 (産業技術総合研究所 研究員)

15:20~17:30 企業紹介・交流会

・住友ベークライト株式会社

・株式会社 クラレ

・大正製薬株式会社

・株式会社 カネカ

・新日鉄住金化学株式会社

・東レ株式会社

・KAICO 株式会社

・三菱ケミカル株式会社

18:30~20:00 夕食・懇親会

### 【第2日目 平成30年7月14日(土)】

8:30~10:30 ポスター発表

10:50~11:40 特別講演会2

「産学連携研究の利点と欠点」

講師 斎藤 恭一 氏 (千葉大学 教授)

11:40~12:00 総合討論・表彰式・閉会式

(別紙2)

## 第29回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 会計報告

○支出	
会議室料	160,440
宿泊・食事代	1,577,022
交流会飲食費	99,682
要旨集印刷・製本料	145,152
保険(振込料込み)	38,324
学生企画費	6,952
表彰関係(図書カード)	39,065
事務費(郵送、印刷)	6,793
雑費	54,249
アルバイト料	167,000
<hr/>	
支出計	2,294,679

○収入	
九州支部 討論会補助金	150,000
学生企画 補助金	100,000
西九州化学工学懇話会	100,000
石油学会ジュニアソサイアティ	20,000
学生参加費(10000円) 84名	840,000
学生参加費(7/14)(1000円) 12名	12,000
教員参加費(15000円) 23名	345,000
教員参加費(不泊)(8000円) 1名	8,000
教員参加費(不泊, 7/13)(5400円) 1名	5,400
企業参加・広告費(8社)	460,000
企業広告費(10社)	280,000
保険	15,000
利息	0
<hr/>	
収入計	2,335,400

Q・NET活動費へ編入 (収入計－支出計)	40,721
--------------------------	--------

(別紙3-1)



図1 学生企画の様子1 (問題に取り組む様子)



図2 学生企画の様子2 (オリエンテーション)



図3 特別講演の様子 (講師：戸井田 力 氏)

(別紙3-2)



図4 企業交流会の様子

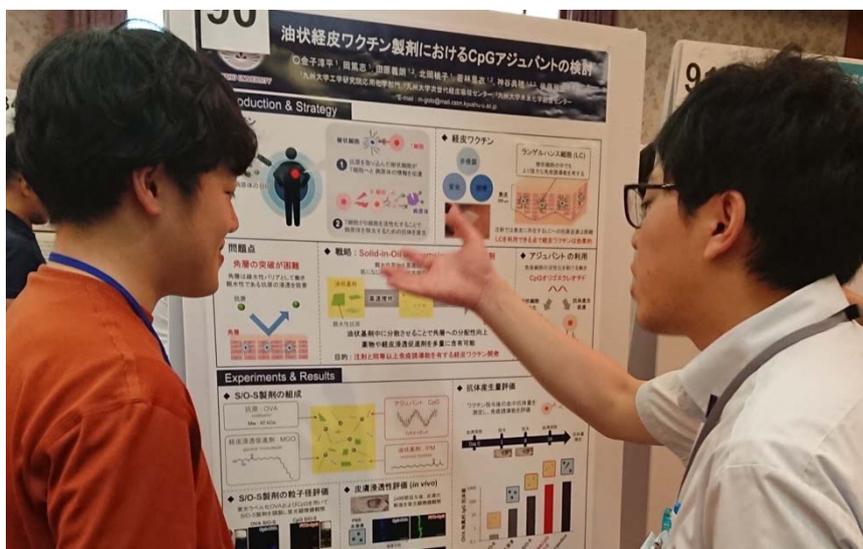


図5 ポスター発表の様子



図6 特別講演の様子（講師：齋藤 恭一 氏）

(別紙 3 - 3)



図7 集合写真

(別紙4)

第29回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 ポスター賞受賞者

No.	氏名	所属	演題
53	○永井 杏奈	崇城大学	機能性分子を導入した機能性ナノ孔複合材料の応用
94	○水野 梨瑚	九州大学	S/O/W 型アジュバントの開発と細胞毒性評価
4	松尾 美波	有明高専	単分散セラミック球の核生成デザイン
32	久原 郁也	佐賀大学	カチオン性高分子ゲルをシェルとするコアシェル型シリカ粒子の合成と粒子膜への応用
34	AGUTAYA Jonas	熊本大学	Insights into the cleavage of the glycosidic bonds of hesperidin in its acid-catalyzed hydrolysis
66	福原 芳樹	鹿児島大学	創傷治癒効果ならびに皮膚接着性を有するペクチンをベースとしたヒドロゲルの開発
77	田口 裕貴	九州大学	正確に孔径制御された金属メッシュを用いた細胞分離方法の検討
78	服部 春香	九州大学	カスケード反応を指向する多孔質モノリス型フローリアクターの開発
82	佐藤 友哉	九州大学	Ni 系合金の水素吸脱蔵時の吸発熱挙動
83	吉田 航	九州大学	レアメタルの高度分離のための反応界面設計と新規膜分離プロセスへの展開
86	大濱 有紀	九州大学	機能化タンパク質固定化 Hydrogel marble のオンデマンド作製
93	花田 隆文	九州大学	高分子包含膜を用いた廃自動車触媒からの白金族金属分離プロセスの開発

○は最優秀賞